

—抄 録—

我が国の死因の上位は「がん」や「心疾患」、「脳血管疾患」であるが、我われが日常的に出くわす疾患として断然多いのは「感染症」である。そして超高齢化社会と言われる現在、「認知症」の患者も診る機会はますます増加してくると予想される。どちらも診たくないだろうが、避けては通れまい。それぞれの問題点をあげ、対応を考える。

また、「血液の病気」「膠原病」は疾患としての頻度は少ないが、口腔内病変の合併は多く、歯科としては非常に注意を払わなければならない疾患である。難しい病態の疾患であるが、共に赤血球・白血球・血小板などの血液成分の異常が疾患の本質であり、系統立てて分りやすく解説したい。

(井上 美佐)